

新入会員紹介コーナー



※5月開催の第13回日本ステンドグラス作家協会東京展の後、宇藤さん、高木さん、阿部さん3名の方が入会されました!!

◇宇藤優子

私がステンドグラスの制作を通して実現したいのは、日々の暮らしに「大好き」を散りばめた、心ときめく空間です。

ステンドグラスは、特別な場所にある芸術作品ではありません。窓から差し込む自然光だけでなく、電球の温かな光を受けることで、また違った表情を見せてくれます。

その瞬間の光と色彩の変化が、私たちの日常をそっと彩る身近な存在でありたい。そんな思いを胸に、ひとつひとつの作品と向き合っています。

近年、世界的にステンドグラスのガラスが減少し、材料の入手も以前より難しくなっています。しかし、この厳しい状況の中だからこそ、ステンドグラスの持つ無限の可能性を信じています。

私にできることは、この美しい光と色彩の世界を絶やさないこと。ガラスの輝きを通して、見る人の心を温かく照らす作品を生み出したいです。

私の作品が、世界中の人々の心に「ワクワク」と「HAPPY」を届けられますように。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。



◇高木享子

この度ご縁をいただき、協会に入会させていただきました高木享子と申します。

ステンドグラスに出会ったのは、15年前。田所孝一先生の作品展を見て、「こんなにきれいでかわいいランプが作れるのかなあ」と憧れて教室に入れていただきました。

それから1作品、1作品、透明感があって、キラキラと美しい色たちのガラスにワクワク、ドキドキしながら作品創りをしています。

今思うと、美術の学校へ通っている時も童話の様な物を描きたいと思っていました。

1枚のステンドグラスの中に物語があって、小さな動物たちが旅をして行く様な、そんなストーリーが感じられる作品を創っていきたくて思っています。



ガラスの美しさと創作の奥深さに魅了され、もっと学びたいという思いから入会を希望しました。

先生方の作品やご活動を見て、触れて、日々刺激を受けています。

これからも学びを深めながら皆さまのお力をお借りして少しずつ成長していけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

◇阿部恒志

この度、新しく会員になりました阿部恒志と申します。ステンドグラスを始めたきっかけは、海外旅行で訪れたヨーロッパの教会や寺院でした。美しいステンドグラスに強く心を打たれ「いつか自分で作ってみたい」と思う様になりました。



退職後に先生と出会い、ご指導をいただきながら製作に励む中で、作品が形になる喜びを知りました。もともと家具のデザインに携わって

いたこともあり、モダンで新しい立体的な作品を目指し、夢中で取り組んできました。気づけば12年がたち念願だった個展、～ステンドグラスの形と趣～「飛翔展」を2024年3月に開催する事ができました。その折に田所会長と出会い日本ステンドグラス作家協会展を知り、一般公募作品として出品させていただきました。皆様の多彩な作風に大きな刺激を受け、もう一度挑戦したい思いから入会致しました。微力ながらお役に立てれば幸いです。どうぞ宜しくお願い致します。

2025年度活動報告

※2024年11月～2025年9月

- 11.20 ラインミーティング
- 3.04 ラインミーティング
- 4.14 通常総会（グループライン）
- 5.11 会報誌 vol.33 発行
- 5.12 第13回日本ステンドグラス作家協会東京展
- ～18 （東京都美術館）
- 6.12 ラインミーティング①



今後の活動予定

2026 5.12～5.17

第14回日本ステンドグラス作家協会東京展

2026 東京 "EMOTION XIV 感動"

★公募作品募集のお知らせ★

来年度東京展の一般公募作品募集致します！

詳細については、協会のHP（NEWS）をご覧ください。



HP: <https://jsgaa.jp>

e-mail: jsgaa@jsgaa.jp

- 発行日 2025年10月
- 発行者 日本ステンドグラス作家協会（JSGAA）
- 事務局 〒187-0002
東京都小平市花小金井7-26-10
船越文恵（アトリエF）
- 編集者 花田良子（アトリエガール） 藤田京子（sun shine）

日本ステンドグラス作家協会

Japan Stained Glass
Artist's Association

日本ステンドグラス作家協会

JSGaA

会報誌vol.34

2025年10月



第13回 日本ステンドグラス作家協会 東京展開催!!



◇日本ステンドグラス作家協会恒例の

『2025 東京 "EMOTION XⅢ 感動" 』

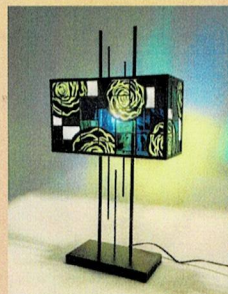
(5/12～5/18 東京都美術館)は、多くの方のご来場(今年度3,833名)、会員のオリジナリティ溢れる作品、力作揃いの公募作品・・・等々、本年度も充実した協会展を開催することができました。会員の方々とは、随時ラインミーティングでのリモート交流はありますが、年一度の作家協会展で直接交流の場が持てるということは、やはり会員相互にとっても研修、刺激の場ともなり、色々な課題もみえてきます。今年も皆様お疲れ様でした!!

最優秀公募賞

第13回 JSGAA 東京展 最優秀公募賞受賞作品

「綴～記憶の彩り～」

野坂文枝



～50の手習いから、憧れの東京都美術館へ～

ガラス工芸を始めて17年が経ちました。この度、公募展に入选し、憧れの東京都美術館で作品を展示する機会をいただきました。

作品タイトルは「綴～記憶の彩り～」。過去の制作で使ったガラスを集め、その一片一片に「想いを連ねるように綴る」という気持ちを、幾何学的な直線と円で表現し、アールデコ風の薔薇模様を施しました。全体的にブルーとグリーンの色合いが調和するよう工夫し、ランプベースもシェードとバランスを合わせ、直線を基調としたオリジナルデザインで制作しました。

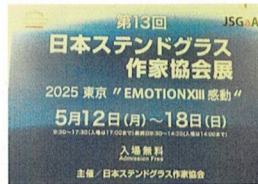
全国の作家が集う「日本ステンドグラス作家協会展」という

晴れ舞台で、多くの素晴らしい作品に触れ、改めて感動と刺激を受けました。この経験を新たなスタートとして、またこの舞台に立てるよう、これからも様々なガラスと出会い、制作活動を楽しみたいと思います。

《野坂文枝》



田所会長と...



チェコ・プラハのステンドグラス工房

小沼貴子

(ジリッカ・カウフォル)

Umělecké sklenářství
Jiříčka-Coufal s.r.o

チェコ、プラハでの展示の機会があり今年6月渡航した。

旧市街地と呼ばれる地域の近くを歩いているとガラス工房と思われる店構え、中でケイムを組んでいる時のコンコンと叩く音。

日曜で入口にcloseとはあったがダメで元々とノックしてみた。「ステンドグラスをしている者ですが中を見せてもらえないか」と... ころよく対応くださった。チェコ人はフレンドリーだ。



住所: U Milosrdných 804,
110 00 Staré Město チェコ



建築に使われているステンドの修復もされている工房。EUも含め街に古いステンドが多く現存している所では修復の需要もしっかりあり就業が成り立つのだろう。



ガス溶接機

絵付け窯



初めてみる工具やガラスのストック等 息をのんだ。出来ることならここで研鑽を積みたい思いがした。

19～20世紀のガラスの中で違和感なく現代のガラスで修復するってどうするのか?

老舗のお店で代々からのタレをつぎ足し使い続けるような事にしている。

色分けしたガラスの棚にはアンティークなものから現代のほぼ同じニュアンス・色のものをストック、キープさせているようだ。



色分けされ、整然と収納されたガラス収納棚



鉛線を引くための機械

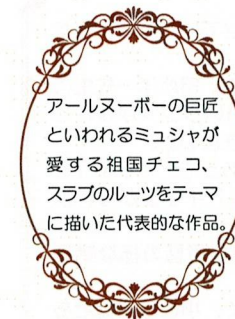
右端には普段自分も使っているスペクトラム(OGT)、ウィズマークもあり親しみを感じた。

「Montage (仏)」モンタージュ
いろいろの断片を組み合わせ構成する。
棚を指さし モンタージュ モンタージュ と連呼されていたのが印象的だった。

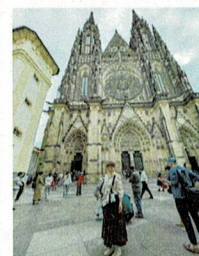


チェコ・プラハといえば・・・

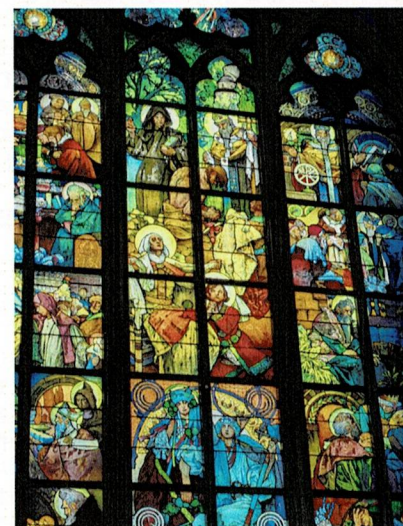
完成まで約600年の歳月を費やし、1929年に完成した**聖ヴィート大聖堂**。この大聖堂は、プラハ城敷地内にありますが、そのステンドグラスは、チェコ芸術の最高傑作といわれ、その代表的な作品が、アルフォンス・ミュシャ制作の「**聖キリルと聖メトディウス**」です。



アールヌーボーの巨匠といわれるミュシャが愛する祖国チェコ、スラブのルーツをテーマに描いた代表的な作品。



聖ヴィート大聖堂を背に...



「聖キリルと聖メトディウス」
アルフォンス・ミュシャ (1931 年作)